

平成30年度第1回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

平成30年度第1回『医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会』を平成30年10月24日(水)に、旧相生小学校 体育館にて開催しました。甲府市南西地域包括支援センター、甲府市南地域包括支援センター及び甲府市笛南地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、191名の方にご参加いただきました。



進行役
千野 大介氏

交流会の進行を甲府市南地域包括支援センターの千野 大介氏、話題提供を山梨県中北保健福祉事務所の小坪 真由美氏、事例提供を甲府市笛南地域包括支援センターの芦澤 貴代美氏に務めていただき、交流会を進めました。

話題提供では、今年度の共通事項として『介護保険法改正からみる多職種連携のあり方』について、診療報酬と介護報酬の同時改定による医療と介護の連携強化と相互理解、多職種間の横のつながりと同時に同一職種間のつながりを意識した情報共有の大切さをお伝えいただきました。



話題提供者
小坪 真由美氏



事例提供者
芦澤 貴代美氏

その後の座談会では、先の話題提供の『情報共有』を踏まえた事例を通じ、多職種の連携について真剣に考えました。

事例の対象者に対し、住み慣れた地域の中で暮らし続けることができる支援を行うにあたり、どのような情報が欲しいのか、また、その情報をどの職種からもらうことができるのか、参加者の皆さんで活発に意見交換をしました。

座談会終了後、各グループで行われた意見交換の内容について発表していただきました。

発表者からは、「今回のケースに限らず、これからの人生を安心して過ごしていけるよう支援するため、多職種で話し合う場を設けたい」という意見や、「情報をどの職種からもらうかという点で、ケアマネジャーに頼っているという部分が多く挙がってきたが、これからはケアマネジャーに頼るだけでなく、自分の力で情報を掴んでいくということも必要なのではないか」という意見など、『情報共有』『多職種連携』をキーワードとした感想や意見を多くいただきました。



その後、参加された医師・歯科医師・薬剤師から、交流会の講評をいただきました。その中でも薬剤師からは「普段から在宅医療に関わっているが、想像していた以上に、様々な考え方や経験が色々な職種の方にあるのだと感じた」「今後、患者と関わる際にも、自分自身だけで『これはいいものだ』と思って進めていくのではなく、他の職種の方と話しながら進めていくことで、より良いサービスや支援が提供できるのではないかと思った」という多職種連携への想いが語られました。

最後に進行役より、「健康状態だけではなく、その後の生活、本人・家族の思いなど、チームの皆さんで持っている情報や共通した問題課題を、主治医を含めてどのように照会・提供していくかがポイントとなる」「顔を合わせるだけではなく意見を交えることが重要であるので、専門職同士の意見交換やケースの共有など、多職種との連携を常に心がけましょう」と締めくくっていただき、交流会は盛会のうちに終了しました。

交流会の様子を 掲載します！

